



3月は世界緑内障週間です

春の気配を感じる寒暖差の大きい季節になりましたが、体調を崩されてはいませんか。3月は緑内障を啓発する世界緑内障週間です。目の病気である緑内障について解説します。

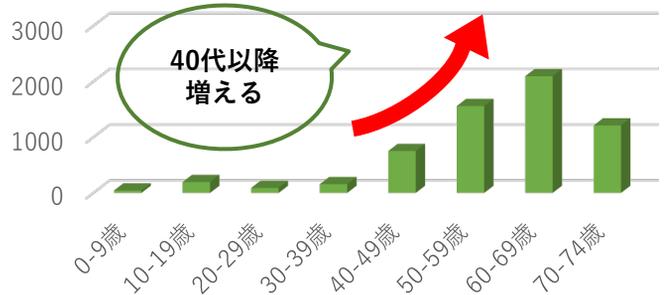
■ 静かに忍び寄る緑内障

- 緑内障は、視神経が障害されて脳に視覚情報を伝えることができなくなり、**視野の中に見えない部分ができたり、視野が狭くなったりする病気**です。
- 急激に眼圧が上昇する急性緑内障(2割)と、自覚症状に乏しい慢性緑内障(8割)があります。
- **慢性緑内障は初期の自覚症状が乏しく、一度障害をうけた視機能は回復しないため、早期発見と早期治療が非常に重要**です。
- 治療が遅れると失明することもあり、**日本で成人の中途失明の原因の第一位**となっています。

■ 緑内障の患者数

右のグラフは当国保組合の令和6年度における緑内障患者の人数を年齢階層別で表しています。60代が多く、40代から増加傾向にあることがわかります。全国統計でも**40歳以上の5%(20人に1人)が罹患**しています。視野に問題がなくても**40歳を過ぎたら眼の定期検診**を受けることが勧められています。

令和6年度 緑内障の実患者数(6,093名)



〈出典〉健助 レセプトデータ分析結果 (令和6年度)

■ 緑内障の原因と症状

【原因】

発症の原因ははっきりとはわかっていません。リスク要因は**眼圧が高いこと、強度の近視、高血圧、低血圧、糖尿病、家族歴、睡眠時無呼吸症候群**などです。

【治療】

眼圧を下げる治療です。薬物治療(点眼)とレーザー治療が主で、場合によっては手術療法となります。

自覚症状 慢性 ● 急性 ●

視力低下	視野欠損	まぶしい
色覚異常	眼精疲労	かすみ目
頭痛	充血	眼痛

■ 定期的な検診が眼を守る

視機能に影響が出ることは、仕事や生活に大きな影響を与えます。視野に問題がない場合でも定期的に検診を受けることが大切です。

【引用・参考】

- 1) 世界緑内障週間
- 2) 重篤副作用疾患対応マニュアル 緑内障
- 3) 緑内障診療ガイドライン (第5版)

